

シャント

Q7 52歳の男性です。もうすぐ透析1年になります。同じクリニックの患者さんがシャントトラブルで専門医を受診すると聞きました。シャントトラブルって何ですか？

A7 透析用シャントとは動脈と静脈をつなげて作ったものです。細い血管同士をつなぐ(吻合)と、勢いのよい動脈血が静脈に流れ込みます。この静脈に太い針を刺して(穿刺)透析をしているのです。血流を変更した静脈に、太い針による穿刺を繰り返すため、静脈は相当傷み、それが原因でシャントにさまざまなトラブルが起こります。このトラブルを総称して、シャントトラブルといいます。

一番多いのが、血管が狭くなって血流量が低下すること(狭窄)や、血栓によって血管の内側が詰まること(閉塞)です。狭窄や閉塞により十分な血流が得られなくなれば、透析が順調に行えなくなります。バルーンで狭窄部位を拡張する(インターベンション)治療や手術が必要となり、専門医への速やかな受診が必要です。

狭窄・閉塞以外にも以下のようなさまざまなシャントトラブルがあります。

- ・狭窄や閉塞のため、血流が本来の血管を通れず手のほうへ流れ込んで、手や腕が腫れ

る……静脈高血圧症

- ・シャントを作ることにより、動脈血流が末梢まで行かなくなり手指の血流が低下し、手が冷たくなったり、痛くなったりする……スチール症候群
- ・シャント吻合部近辺に瘤ができる……シャント瘤
- ・シャント穿刺の傷に菌が付いて発赤、膿などがみられる……シャント感染

シャントトラブルが発生していないか、日ごろから自分のシャントを観察することが大切です。シャント肢を見て皮膚に異常はないか、聴診器をシャントに当ててシャント音の変化はないか確認しましょう。また、手でシャントを吻合部から順に触ってみましょう。硬いところや、強い拍動はありませんか。おかしいと思ったら透析スタッフに相談してください。いずれのシャントトラブルでも、専門医による早期診断、早期管理が大切です。

(島津偉一、前波輝彦/
あさお会 あさおクリニック・医師)